

社長さんが知っておきたい 冠婚葬祭のマナー

～いまどきのご葬儀④～

いまどきのご葬儀として、時代やコロナ禍を経て変化しつつある、ご葬儀の在り方をお伝えしています。今回は、アフターコロナでのご葬儀についてお話いたします。

5月に新型コロナウイルスが5類感染



症に移行し、インフルエンザと同じ扱いになりました。病院でも少しずつ警戒態勢が緩和され、広く外来患者が受け入れられるよう

になり、マスクを外し、以前のように人が集まる機会が増えました。

ご葬儀も、コロナ禍はごく内輪の家族葬が多く、会葬者に振る舞う食事なども、代御膳(だいごぜん)として、持ち帰りのお弁当を用意することが多かったのですが、

これもアフターコロナで少しずつ、本来の通夜振る舞いの形へ戻りつつあります。

しかし、すべてが以前に戻ったかという点、決してそうでもありません。この3年間で、家族葬は加速し、みなさんの意識に定着したことで、ご葬儀に対するイメージも変わりつつあります。

ひと昔前は、ご葬儀は「亡くなった人のため」と捉えることが多かったですが、今では「残された家族のためにも」と考える傾向が見受けられます。自分たちらしい

お見送りをするため、宗教やしきたりにとられない、多様性を大切にする葬儀が増えています。

例えば、キリスト教ではなくても献花をしたい。お墓もなく宗教と関係がないから音楽葬やお別れ会にしようなど、時代とともに見送る家族の考え方も変わり、自由な発想でご葬儀をあげる方もいます。また、訃報を受けた側も家族の意向に配慮して、柔軟な対応をされていると感じます。

これまで計4回にわたり、新型コロナ禍前・後でのご葬儀についてお伝えしてまいりましたが、いかがでしたでしょうか。

今年も1年お付き合いいただきありがとうございました。来年も引き続き、今さら聞けないしきたりや、知っておきたいマナーなど、冠婚葬祭に関する基本的な情報をお伝えしてまいります。

素敵な振る舞いができる大人になれるよう、どうぞお役立てください。

(fami友葬・清水ふじ代)